

本塁のクロスプレイについて

プロ野球では、捕手と走者との激しい衝突による試合中の事故を防ぐためのルール（コリジョン・ルール）が2016年シーズンより厳格に適用されています。従来と比較して、捕手の本塁での立ち位置が大きく変わっていることがわかんと思います。

アマチュアでは2013年から内規で危険行為を禁じているため大きな変更はありませんが、本塁クロスプレイがどのような扱いになるか、全軟の講習会の内容を基に説明します。仙台市野球協会での運用は今後協議されますが、参考までにご覧ください。

★捕手のブロック行為はNG

捕手が膝を地面につけて、レガースなどを用いて走者の本塁突入を防ぐ行為（ブロック）は認められません。もちろん、捕手に限らずレガースをつけていない投手や野手もブロックはできません。

★走路・ベース上で送球を待ち構えるのはNG

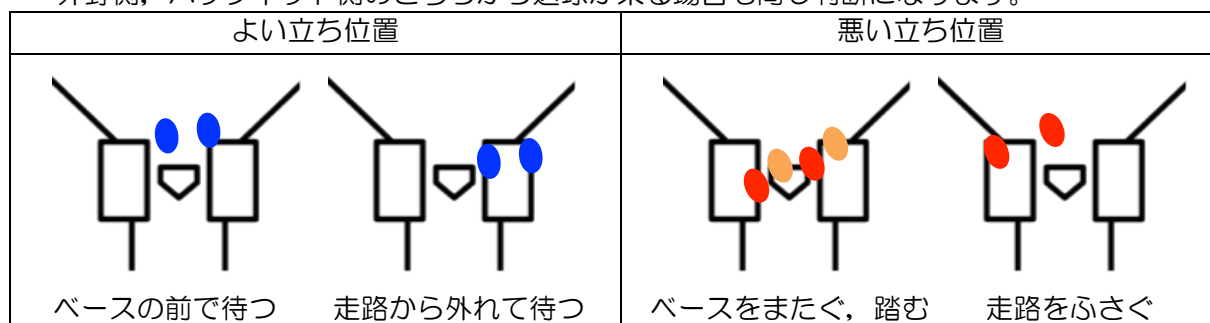
本塁を守る選手（捕手及びベースカバーに入った投手、野手）は、**ボールを持たない状態で走路に入ったり、ホームベース上に立ったりすることはできません。**捕手やベースカバーに入った投手がホームベースをまたいだ状態で送球を待ち構える姿が多く見受けられますが、ホームベースの上方空間に体があることになるので認められません。

★ボールを持っていれば、走路に入ってもOK

走路に入らずにタッグ行為を行う必要があるプロ野球とは異なり、ボールを持った状態で走路に入るとは差し支えありません。**ブロックをしなければ、走路に入って走者にタッグすることは問題ありません。**また、プレイの必要がある場合（走路側に逸れた送球を捕りに行くなど）にやむを得ず走路に入るとは妨害行為にはなりません。

◎送球を待ち構える際（ボールを持たない状態）の立ち位置の例

外野側、バックネット側のどちらから送球が来る場合も同じ判断になります。



※ボールを持っていればこの立ち位置も可（ブロックは不可）

★審判員は、捕手に正しい位置を取るよう声掛けする

本塁を守る選手が上記の「悪い立ち位置」で送球を待ち受けている場合は、確認できた段階で**審判員が当該選手に対して立ち位置を変えるよう声掛けし、捕手と走者の衝突を未然に防ぐようにします。**守備側（同一選手）の違反が1度目の場合は注意し、2度目は警告、3度目は退場とします（交代時は回数がリセットされる）。故意の危険行為の場合は審判員の判断で退場処分とします。

守備側の違反がなければセーフになる見込みのあったプレイが守備側の行為や立ち位置によってアウトになったと判断される場合は走塁妨害（オブストラクション）を適用します。守備側の違反がなくてもアウトであったと判断される場合は走塁妨害を適用しません。